

海洋調査技術学会

2017事業年度

第29回通常総会

日時：平成29年11月6日（月） 13:20～14:20

場所：日本大学工学部駿河台キャンパス1号館2F

大会議室（121室）

海洋調査技術学会

第29回通常総会

議事次第

日時 平成29年11月6日(月) (13時20分～14時20分)

場所 日本大学理工学部駿河台キャンパス1号館

1. 開 会

2. 表彰について

3. 議長選出

4. 議 事
- (1) 2016事業年度事業報告について (第1号議案) 承認事項
 - (2) 2016事業年度決算報告について (第2号議案) 承認事項
 - (3) 2017事業年度事業計画案について (第3号議案) 承認事項
 - (4) 2017事業年度予算案について (第4号議案) 承認事項
 - (5) 海洋調査技術学会会則の改正について (第5号議案) 承認事項
 - (6) 2017事業年度表彰について 報告事項1
 - (7) 2017事業年度評議委員及び役員について 報告事項2
 - (8) その他

5. 閉 会

2016事業年度事業報告案
(2016.10.1～2017.9.30)

1. 総会及び委員会等

(1) 第28回総会の開催

期日 2016年10月25日

場所 日本大学理工学部駿河台キャンパス1号館2F
大会議室(121室)

議題 2016事業年度事業報告及び決算報告について
2017事業年度事業計画案及び予算案について

(2) 評議員会、各委員会の開催

下記の会議が開催された。

ア) 評議員会

期日 2016年10月25日

場所 日本大学理工学部駿河台キャンパス1号館2F 122室

期日 2017年5月12日～25日

場所 メール会議

イ) 総務委員会(拡大総務委員会)

期日 2016年10月17日(拡)

場所 (一財)日本水路協会

ウ) 企画委員会

期日 2017年 6月28日

2017年10月 5日

場所 東京大学地震研究所事務会議室A(1号館)

エ) 編集委員会

期日 2016年10月 3日

2017年 2月 6日

2017年 5月10日

2017年 7月 4日

場所 (一財)日本水路協会

オ) 評議員臨時会合

期日 2017年 5月16日

場所 新橋喫茶ルノアール会議室

2. 研究成果発表会及び講演会等

(1) 第28回研究成果発表会

期間 2016年10月25日～26日

場所 日本大学理工学部駿河台キャンパス1号館2F
大会議室(121室)

特別講演	2件
特別セッション	5件
発表	13件
ポスターセッション	3件

(2) 機器展示会

期間 2016年10月25日～26日

場所 日本大学工学部駿河台キャンパス1号館2F 122室

参加数 7社(会員7社)

(3) 一般講演会(海洋調査技術の啓発、地方講演)

演題 南海トラフ地震時の海上対応のためのセミナー

期日 2017年1月19日

場所 高知保安部

(4) 出前講座(海洋調査技術の啓発、関東地方)

実施なし

(5) 講演会、シンポジウム等の共催

実施なし

3. 学会誌

海洋調査技術第29巻1号(通巻57号)(2017年3月)

海洋調査技術第29巻2号(通巻58号)(2017年9月)

4. ニュースレター

第61号(2017年3月)

5. HP運用・メールマガジンの配信

HP URL: <http://jsmst.org/>

学会関連情報等をメールマガジンを利用して会員に配信した。

6. 講演会・シンポジウム等への協賛

(1) 可視化情報全国講演会(日立2016)

主催 一般社団法人可視化情報学会

期間 2016年10月8、9日

場所 茨城大学日立キャンパス

(2) 第58回海中海底工学フォーラム

主催 海中海底工学フォーラム運営委員会

期間 2016年10月14日

場所 東京大学大気海洋研究所

(3) Autonomous Underwater Vehicles2016(AUV2016)

主催 IEE/OES(Oceanic Engineering Society)

期間 2016年11月6～7日

場所 東京大学生産技術研究所

- (4) 第26回海洋工学シンポジウム
主催 日本船舶海洋工学会、日本海洋工学会
期間 2017年3月6、7日
場所 日本大学理工学部駿河台キャンパス1号館
- (5) 第59回海中海底工学フォーラム
主催 海中海底工学フォーラム運営委員会
期間 2017年4月14日
場所 東京大学生産技術研究所
- (6) 第45回可視化情報シンポジウム
主催 (一社)可視化情報学会
期間 2017年7月18、19日
場所 工学院大学 新宿キャンパス
- (7) 第60回海中海底工学フォーラム
主催 海中海底工学フォーラム運営委員会
期間 2017年10月20日
場所 東京大学大気海洋研究所
- (8) 可視化情報全国講演会(室蘭2017)
主催 一般社団法人 可視化情報学会
期間 2017年11月3日、4日
場所 室蘭工業大学
- (9) 「OCEANS' 18MTS/IEEE Kobe/Techno-Ocean 2018」
主催 テクノーション・ネットワーク、IEEE/OES 日本支部等
期間 2018年5月28日～31日
場所 東京大学生産技術研究所

7. 講演会・シンポジウム等への後援

- (1) 平成29年度 岩手県三陸海域研究論文知事表彰事業
主催 岩手県
期間 2017年4月～8月

2016事業年度決算報告 (2016. 10. 1～2017. 9. 30)

<一般会計>

(収入の部)

(単位：円)

科目	予算額	決算額	備考
前年度繰越金	2,771,990	2,771,990	
会費収入	2,600,000	2,374,240	
正会員会費	1,220,000	1,083,250	納入：216名(うち、学生会員1名、EMEMBER-shipファイナンス35名)
賛助会員会費	1,380,000	1,290,990	納入：41社 (EMEMBER-shipファイナンス3社)
事業収入	759,000	681,046	
広告掲載料	64,000	48,000	納入：3社
機器展示料	530,000	420,000	
要旨集代金	75,000	72,000	
諸出版物代金	90,000	141,046	学会誌バックナンバー等
雑収入	176,000	144,023	懇親会収入(¥140,000)、利子等
懇親会収入	175,000	140,000	@3,500×40人
雑収入	1,000	4,023	寄付、利子等
合計	6,306,990	5,971,299	

(支出の部)

(単位：円)

科目	予算額	決算額	備考
事務費	1,279,400	1,172,922	
会議費	110,000	114,079	各委員会(出席旅費)等
賃金	50,400	0	アルバイト代金
査読謝金	24,000	15,000	学会論文査読
通信運搬費	240,000	227,709	会誌発送、ネット料金等
諸印刷費	65,000	39,861	封筒、コピー代
消耗品費	20,000	31,506	文具代等
事務委託費	730,000	730,868	毎日学術フォーラム事務委託費
雑費	40,000	13,899	振込手数料等
事業費	2,750,000	2,059,170	
会誌印刷費	1,300,000	1,022,760	会誌年間2号発行
発表会運営費	350,000	321,744	謝金・交通費・レンタル機材・賞品代・盾代・事務委託費
要旨集印刷費	150,000	124,740	要旨集代金
一般講演及び出前講座費	50,000	0	
名簿印刷費	600,000	289,926	
30周年記念事業 繰出	300,000	300,000	特別会計へ
雑支出	175,000	175,000	懇親会費
懇親会費	175,000	175,000	
予備費	100,000	0	
次年度繰越金	2,002,590	2,564,207	
合計	6,306,990	5,971,299	

<30周年記念事業基金特別会計>

(収入の部)

(単位：円)

科目	予算額	決算額	備考
前年度繰越金	2,100,000	2,100,000	
一般会計からの繰入	300,000	300,000	
合計	2,400,000	2,400,000	

(支出の部)

(単位：円)

科目	予算額	決算額	備考
事業費	0	0	
次年度繰越金	2,400,000	2,400,000	
合計	2,400,000	2,400,000	

海洋調査技術学会

2016事業年度監査報告

監査の結果、2016事業年度「一般会計」及び「特別会計」は、適正に処理されていることを確認しました。

平成29年10月18日

会計監査氏名

中川 一郎



会計監査氏名

中陣 隆夫



2016事業年度の会員数の推移について

(2017年9月30日現在)

平成29年10月9日
海洋調査技術学会事務局

1. 正会員

年度当初の会員数	307名 (うち学生会員 4名)
年度内の入会者数	9名 (うち学生会員 0名)
年度内の退会者数	12名 (うち学生会員 0名)
年度末の会員数	304名 (うち学生会員 4名) : 3名減

2. 賛助会員

年度当初の会員数	46社
年度内の入会者数	0社
年度内の退会者数	0社
年度末の会員数	46社

2017事業年度事業計画案
(2017.10.1～2018.9.30)

1. 総会及び委員会等

(1) 第29回総会の開催

期日 2017年11月6日

場所 日本大学理工学部駿河台キャンパス1号館

(2) 評議員会の開催

第一回

期日 2017年10月26日

場所 八重洲ホール 412会議室

(3) 拡大総務委員会の開催

第一回

期日 2017年10月23日

場所 八重洲ホール 703会議室

適宜

(4) 総務、企画、編集、広報委員会の開催

適宜

2. 研究成果発表会及び講演会等

(1) 第29回研究成果発表会

期間 2017年11月6日～7日

場所 日本大学理工学部駿河台キャンパス1号館

(2) 機器展示会

期間 2017年11月6日～7日

場所 日本大学理工学部駿河台キャンパス1号館

(3) 一般講演会（海洋調査技術の啓発、地方講演）

期日 未定

場所 未定

(4) 出前講座（海洋調査技術の啓発）

期日 未定

場所 未定

(5) 講演会、シンポジウム等の共催

期日 未定

場所 未定

3. 学会誌

海洋調査技術第30巻1号（通巻59号）（2018年 3月）

海洋調査技術第30巻2号（通巻60号）（2018年 9月）

4. ニュースレター
随時作成、送付
5. HP運用・メールマガジンの配信
HP URL：<http://jsmst.org/>
随時、学会関連情報等をメールマガジンを利用して会員に配信する。
6. 講演会・シンポジウム等への協賛
未定
7. CPDに係る活動

2017事業年度予算案 (2017. 10. 1～2018. 9. 30)

<一般会計>

(収入の部)

(単位：円)

科目	予算額	備考
前年度繰越金	2,564,207	
会費収入	2,588,000	
正会員会費	1,208,000	納入：304名(うち、学生会員4名、EMEMビシーファイナンス 35名)
賛助会員会費	1,380,000	納入：46社 (EMEMビシーファイナンス3件)
事業収入	498,000	
広告掲載料	48,000	納入：3社 × 1回
機器展示料	285,000	納入：8社 (内非会員1)
要旨集代金	75,000	
諸出版物代金	90,000	学会誌バックナンバー等
雑収入	176,000	懇親会収入、利子等
懇親会収入	175,000	@3,500×50人
雑収入	1,000	利子等
収入合計	3,262,000	

(支出の部)

(単位：円)

科目	予算額	備考
事務費	1,419,400	
会議費	250,000	委員会等出席旅費、会議室借料 (10,000×10回、15,000×10回)
賃金	50,400	アルバイト代金
査読謝金	24,000	学会論文査読等
通信運搬費	240,000	会誌発送、ネット料金等
諸印刷費	65,000	封筒、コピー代
消耗品費	20,000	文具代等
事務委託費	730,000	毎日学術フォーラム事務委託費
雑費	40,000	振込手数料等
事業費	1,900,000	
会誌印刷費	1,300,000	会誌年間2号発行
発表会運営費	400,000	会場使用料・謝金・交通費・賞品代・盾代・事務委託費・総会資料印刷
要旨集印刷費	150,000	要旨集代金
一般講演費及び出前講座費	50,000	
雑支出	175,000	懇親会費
懇親会費	175,000	@3,500×50人
予備費	100,000	
支出合計	3,594,400	
収入－支出	-332,400	
前年度繰越金	2,564,207	
合計	2,231,807	
次年度繰越金	2,231,807	

<30周年記念事業基金特別会計>

(収入の部)

(単位：円)

科目	予算額	備考
前年度繰越金	2,400,000	
一般会計からの繰入	0	
合計	2,400,000	

(支出の部)

(単位：円)

科目	予算額	備考
事業費	0	
次年度繰越金	2,400,000	
合計	2,400,000	

海洋調査技術学会会則の改正について

1988年11月14日制定

2017年 月 日一部改正

改正案

(会費)

第13条 本会の会費は次のとおりとする。

- (1) 正会員 年額 5,000 円
- (2) 賛助会員 年額 35,000 円以上
- (3) 学生会員 年額 2,000 円

*なお、改正後の会費の徴収は、2018事業年度から実施する。

2017年度 岩宮賞候補の推薦について

平成29年10月26日

海洋調査技術学会事務局

平成29年度の岩宮賞について、別紙のとおり以下の8名を候補として推薦いたします。

記

1. 岩根 信也 (いわね しんや)
2. 海宝 由佳 (かいほう ゆか)
3. 蒲生 俊敬 (がもう としたか)
4. 篠原 雅尚 (しのはら まさなお)
5. 徳山 英一 (とくやま ひでかず)
6. 藤本 博巳 (ふじもと ひろみ)
7. 松梨 史郎 (まつなし しろう)
8. 山本 富士夫 (やまもと ふじお)

以上

岩宮賞候補の推薦について

1 推薦候補者名

氏名：岩根 信也（いわね しんや）

経歴：

2007～2016 事業年度（10年間） 評議員

2007～2016 事業年度（10年間） 企画委員

2 推薦基準

岩宮賞表彰規定第3条による

3 推薦理由 評議員を2007年より10年間、また企画委員を同期間勤められ、当学会の発展に寄与された。

この業績は本学会にとって非常に顕著であり、岩宮賞候補として推薦したい。

岩宮賞候補の推薦について

1 推薦候補者名

氏名：海宝 由佳（かいほう ゆか）

経歴：

2007～2016 事業年度（10年間） 評議員

2007～2016 事業年度（10年間） 企画委員

2 推薦基準

岩宮賞表彰規定第3条による

3 推薦理由 評議員を2007年より10年間、また企画委員を同期間勤められ、当学会の発展に寄与された。

この業績は本学会にとって非常に顕著であり、岩宮賞候補として推薦したい。

岩宮賞候補の推薦について

1 推薦候補者名

氏名：蒲生 俊敬（がもう としたか）

経歴：

2007～2016 事業年度（10 年間） 評議員

2 推薦基準

岩宮賞表彰規定第 3 条による

3 推薦理由 評議員を 2007 年より 10 年間勤められ当学会の発展に寄与された。

この業績は本学会にとって非常に顕著であり、岩宮賞候補として推薦したい。

岩宮賞候補の推薦について

1 推薦候補者名

氏名：篠原 雅尚（しのはら まさなお）

経歴：

2007～2016 事業年度（10 年間） 評議員

2009～2016 事業年度（ 8 年間） 企画委員長

2 推薦基準

岩宮賞表彰規定第 3 条による

3 推薦理由 評議員を 2007 年より 10 年間、また企画委員長を 2009 年より 8 年間勤められ、当学会の発展に寄与された。

この業績は本学会にとって非常に顕著であり、岩宮賞候補として推薦したい。

岩宮賞候補の推薦について

1 推薦候補者名

氏名：徳山 英一（とくやま ひでかず）

経歴：

2009～2016 事業年度（8年間） 会長、評議員

1997～2006 事業年度（10年間） 会長

2 推薦基準

岩宮賞表彰規定第3条による

- 3 推薦理由 会長、評議員を2009年より8年間、また1997年より10年間勤会長を勤められ、当学会の発展に寄与された。
この業績は本学会にとって非常に顕著であり、岩宮賞候補として推薦したい。

岩宮賞候補の推薦について

1 推薦候補者名

氏名：藤本 博巳（ふじもと ひろみ）

経歴：

2007～2016 事業年度（10年間） 評議員

2 推薦基準

岩宮賞表彰規定第3条による

- 3 推薦理由 評議員を2007年より10年間、評議員を間勤められ、当学会の発展に寄与された。
この業績は本学会にとって非常に顕著であり、岩宮賞候補として推薦したい。

岩宮賞候補の推薦について

1 推薦候補者名

氏名：松梨 史郎（まつなし しろう）

経歴：

2005～2016 事業年度（12年間）編集委員、編集委員長

2011～2016 事業年度（6年間）評議員

2 推薦基準

岩宮賞表彰規定第3条による

3 推薦理由 編集委員を2005年より6年間、引続き編集委員長を2011年より6年間勤められ、当学会の発展に寄与された。

この業績は本学会にとって非常に顕著であり、岩宮賞候補として推薦したい。

岩宮賞候補の推薦について

1 推薦候補者名

氏名：山本 富士夫（やまもと ふじお）

経歴：

2007～2016 事業年度（10年間）評議員

2 推薦基準

岩宮賞表彰規定第3条による

3 推薦理由 評議員を2007年より10年間、評議員を間勤められ、当学会の発展に寄与された。

この業績は本学会にとって非常に顕著であり、岩宮賞候補として推薦したい。

2017年度 永田賞候補の推薦について

下記の論文を永田賞の候補として推薦します。

海洋調査技術学会編集委員長

永田賞推薦論文：「船舶搭載型 ADCP で捉えられた富山湾の流れの特性
—夏季湾奥部に発生する反時計回りの渦について—」
(海洋調査技術 27 巻 2 号掲載)

著者：千葉 元 (ちば はじめ) (富山高等専門学校商船科)
道田 豊 (みちだ ゆたか) (東京大学大気海洋研究所)
古山 彰一 (ふるやま しょういち) (富山高等専門学校情報工学科)
橋本 心太郎 (はしもと しんたろう) (富山高等専門学校練習船「若潮丸」)

推薦理由：

本論文は、富山湾南部で盛夏に発生する反時計回りの渦とその発生機構について、「若潮丸」搭載 ADCP による航走観測データおよび CTD による水温塩分データを中心に、リモートセンシングデータ等も加えて多角的な検討を行っている。その結果、対馬暖流が富山湾西部の岸沿いに反時計回りに沿岸表層水の下を進行する運動と、河川水由来の低密度表層水自身の運動との相互作用が、渦を発生・維持させているという機構の提案を行った。

本研究は、富山湾特有の気象海象の理解に繋がるほか、環境評価、漁業振興にも貢献する。また、強い沿岸流の影響下にある内湾での渦発生機構解明への貢献も期待され、高く評価できる。

海洋調査技術学会新評議員について

(2016 事業年度選挙結果報告)

石井 春雄	(いしい はるお)	【(一財) 日本水路協会】
植木 俊明	(うえき としあき)	【(株) 海洋先端技術研究所】
植平 賢司	(うえひら けんじ)	【(国研) 防災科学技術研究所】
沖野 郷子	(おきの きょうこ)	【東京大学大気海洋研究所】
加藤 幸弘	(かとう ゆきひろ)	【海上保安庁海洋情報部】
笠谷 貴史	(かさや たかふみ)	【(国研) 海洋研究開発機構】
久保田 隆二	(くぼた りゅうじ)	【川崎地質株】
塩原 肇	(しおばら はじめ)	【東京大学地震研究所】
下島 公紀	(したしま きみのり)	【東京海洋大学】
中野 健一	(なかの けんいち)	【日本海洋株】
永井 紀彦	(ながい としひこ)	【(株) エコー】
長尾 正之	(ながお まさゆき)	【(国研) 産業技術総合研究所】
藤田 雅之	(ふじた まさゆき)	【海上保安庁海洋情報部】
三澤 文慶	(みさわ あやのり)	【(国研) 産業技術総合研究所】
道田 豊	(みちだ ゆたか)	【東京大学大気海洋研究所】
森永 健司	(もりなが けんじ)	【(国研) 国際水産資源研究所】

(50 音順、敬称略)

海洋調査技術学会新役員について

別途報告